参考1

第2回林政審議会施策部会における意見の反映結果

章	ページ	意見	反映結果
トピックス	3	再生プランに関連する記述の掲載箇所を分かるようにするべき。	トピックスの本文中に、関連部分の記述箇所を加筆した。 本文中の「森林・林業再生プラン」に関連する記述箇所でも、トピックスを参照するよう、脚注を加えた。
トピックス	3	「10トン積みトラック」の記述に違和感あり。路網整備の趣旨が分かるようにすべき。	路網整備の趣旨が明らかになるよう、「木材輸送や森林施業の効率化を図るため」と加筆した。
トピックス	3	「フォレスター等の人材の育成」となっているにも関わらず、フォレスターしか記述されていない。川下分野における人材の育成も記述すべき。	「また、森林施業プランナーや素材流通コーディネートを担う人材等の育成に取り組みます」旨加筆した。
本文全体		グラフの時間軸のとり方を整理すべき（※今回の白書への反映は必ずしも求めない）。	類似した内容のグラフを隣接して掲げる場合には、極力、時間軸のとり方を揃えることとした。
I	10-11	木材輸出の記述量に比べて、木材輸入に関する記述が少なすぎる。	製品別の輸入動向と自給率に関する記述を加えた。 図Ｉ－2の製品輸入量を製品区分別に細分化した。
I	13	木材需要全体の動向に、製材用とパルプ・チップ用材の記述はあるが、合板用の記述がない。	「合板用材は国産材が急増」とする項目を立てて、合板用材の需給動向について加筆した。 図Ｉ－6として、合板用材の需給動向のグラフを加えた。
I	14	紙・板紙の需要が「伸び悩む」とあるが、ペーパーレス化により、大幅に減少するのではないか。	「人口減少等により、頭打ちとなることが予想されており」に修正した。
I	14	地域の活性化、雇用の確保のためには、国産材を使うことが重要である旨記述すべき。	木材利用の意義として、国産材の利用は森林の有する多面的機能の発揮と地域の活性化につながる旨加筆した。
I	14	副題である「木の文化」について、「木の文化」をどう考えるのかを記述すべき。	第1節の最後で、我が国の「木の文化」について説明した上で、木材の需要拡大により、人間と木材の間に新たな関係が生み出されることにつながる旨加筆した。
I	15	表Ｉ－1（在来工法住宅の単位面積当たり木材使用量）はデータが古すぎる。アップデートすべき。	データのアップデートが行われていないので、ミスリードを避けるため、表を削除した。
I	15	図Ｉ－8（在来工法住宅における部材別木材使用割合）のグラフに面材のデータを加えるべき。	図Ｉ－8に床下地用合板のデータを加えた。 本文に、床下地用合板についての記述を加筆した。

章	ページ	意見	反映結果
I	15	住宅分野で国産材利用の拡大が期待できるものに、構造用合板を加えるべき。	国産材利用の拡大が期待できる部材として、「床下地用合板等の面材」を加筆した。 また、16頁に、「合板分野における国産材利用が進展」とする項目を立てて、合板分野における国産材利用の動向を詳細に紹介した。同頁の脚注でも、床下地用合板に厚物合板の利用が広がっていることを記述した。
I	16	長期優良住宅の記述を増やすべき。	長期優良住宅の説明を加筆した。
I	17	地域材住宅への支援に関連して、製材のみならず、合板も対象となることを期待する旨記述すべき。	「これらの取組では、柱材のみを対象とするものが多かったが、最近では、面材を対象とする取組も導入されつつある」旨加筆した。
I	18	土木工作物への木材利用に関連して、コンクリート型枠用合板を記載すべき。工事現場の仮囲い、敷き板等も重要。	開発・施工の進む資材として、「間伐材等を使用した合板型枠」を加筆した。 工事用仮囲いと工事現場の敷き板については、技術開発の課題として、38頁に加筆した。
I	18	表Ｉ－1に、コンクリート型枠用合板を加えるべき。	表Ｉ－1は「新農林水産省木材利用推進計画」のうち、目標が定められているものを掲げている。コンクリート型枠合板は「モデル的な取組」の一つとして掲載されているが、目標は示されていないことから、掲載は見合わせた。
I	19	エネルギー利用では薪が重要（※今回の白書への反映は必ずしも求めない）。	かつて、木材は木炭や薪の形態でエネルギー源として多用されてきた旨加筆した。
I	23	耐火性能の記述において、厚物合板の活用により燃えにくくなることを記述すべき。	準耐火構造として国土交通大臣認定を取得した厚物合板も開発されている旨加筆した。
I	23	木造建築物のコストは抑制が可能と書いているが、コストを安くできると正直に書くべき。	小見出しを「木造建築物の低コスト化は可能」に修正した。あわせて、本文の記述を整理した。 （ただし、文献を引用した箇所では、文献の書きぶり通りに、「コストを抑えて整備することができる」と記述した。）
I	24	JAS認定工場の割合は合板工場についても記述すべき。	「JAS認定を取得した工場の割合は、<u>合板工場では約8割であるのに対して</u>、」と加筆した。
I	25	木造建築物の維持管理の重要性について記述すべき。	木造建築物を良好な状態で使用し続けるためには、維持管理を行う仕組みを導入することが重要である旨加筆した。
I	25	「限られた予算」のみならず、「限られた期間」も加筆すべき。	「限られた予算・期間」に修正した。
I	26	中小規模の工場がJAS認証を取得しやすい環境を整備することが重要。	「JAS制度に関する普及啓発活動等を通じて、JAS認定を取得しやすい環境の整備を進めることが重要である」旨加筆した。
I	28	図Ｉ－11に関連して、未利用間伐材等2000万立米の利用可能性や経済性について整理すべき（※今回の白書への反映は必ずしも求めない）	31頁の今後の課題に、「資源としての利用可能性を明らかにした上で」と加筆した。 （※2000万立米の利用可能性の分析は今後の課題としたい。）

章	ページ	意見	反映結果
Ⅰ	28ほか	「製材」「製材等」「製材工場等残材」は「製材・合板」等と記載すべき。	「製材工場等残材」は統計上の正式用語である「工場残材」に統一した。「製材工場等」についても、「木材加工工場」とするなど、適宜、表現を見直した。
Ⅰ	30	チップボイラーによる熱供給の事例を加えるべき。	製麺工場におけるチップボイラー導入の事例を加えた。
Ⅰ	31	木質バイオマスのエネルギー利用は、マテリアル利用を優先すべきことを明記すべき。	木材の利用に当たっては、建築物等の資材として利用した後、木質ボードや紙等での利用を経て、最終的に燃料として利用すること（カスケード利用）が理想である旨加筆した。
Ⅰ	38	「木材需要拡大への条件整備」の部分で、厚物合板等について記述すべき。	型枠用・フロア台板用の合板、床用の厚物合板、工事現場の敷き板について加筆した。
Ⅰ	38	リフォーム需要への対応が重要。	「技術開発の推進」の一つとして、「増加の見込まれるリフォーム需要に対応した簡易に施工できる内装材」を加筆した。
Ⅰ	39	「木材の顔の見える家づくり」のような、木材が表面に見えるような家づくりが重要（※今回の白書への反映は必ずしも求めない）。	「消費者理解の醸成」の一つとして、「『顔の見える木材での家づくり』等による木材を多用した住宅の普及」を加筆した。
Ⅱ	48	民間レベルでのカーボンオフセットの取組を記述すべき。	事例として、旅客鉄道会社による「カーボンオフセット特典」の取組を加えた。
Ⅲ	56	齢級構成の将来の姿と進むべき方向性を示すべき。	齢級構成が若齢林に偏っており、均衡のとれた森林資源の造成が必要である旨加筆した。（※将来の齢級構成については、「森林・林業基本計画」の見直しの中で検討することとしたい。）
Ⅲ	56	来年以降、2050年の齢級構成の予測を提示することはできないか（※今回の白書への反映は必ずしも求めない）。	
Ⅲ	56	図Ⅲ－5は17齢級までとなっているが、もう少し期間を長くできないか。	１９齢級までのデータを加えた。
Ⅲ	57	外国資本による森林買収については、本文に分析を記述すべき。	本文の中で、調査結果を説明した上で、森林所有者が誰であれ森林の有する公益的機能が十全に発揮されるように整備・保全されることが重要であることから、保安林制度や林地開発許可制度等の適切な運用や無秩序な伐採や造林未済地 の発生を防止する仕組みの検討を進める旨記述した。
Ⅲ	57	間伐に関連して、「利用間伐」と「伐り捨て間伐」について記述すべき。	利用間伐に関する記述と多くの間伐木が林内に放置されている現状を加筆した。
Ⅲ	71	最近、特に鳥獣被害が増加していることが分かるような工夫ができないか。	森林資源モニタリング調査におけるシカ被害箇所数の動向に関する記述と図を加えた。
Ⅳ	86	育林コストについても記述すべき。	「育林経費は高い」として、育林経費の現状を紹介するとともに、主伐による収入との比較を記述した。また、育林経費に関する図を加えた。
Ⅳ	90	「イコールフッティング」について記述すべき。	林業事業体間の競争が働く仕組みを構築する必要があると提言された旨加筆した。
Ⅳ	96	施業の集約化に関連して、「境界の確定」についても記述すべき。	「境界の確定」に関する取組状況を整理して加筆した。

章	ページ	意見	反映結果
Ⅳ	100	「フォレスター」の記述を充実すべき。	「フォレスター」を育成する背景や今後のスケジュールを加筆した。
Ⅳ	102	山村での生活条件に関連して、教育への支援について加筆すべき。	アンケート結果の分析に、子供の教育面で不満を挙げる者が多いこと、若い世代で山村の生活に不満を感じる者が多いことを加筆した。
Ⅴ	116	木材輸入量に関する円グラフを入れるべき。	円グラフを入れた。
Ⅴ	119	CoC認証についても記述すべき。	認証材の分別管理のためにCoC認証が導入されていることを記述した。
Ⅴ	120	表Ⅴ－1にFSCとPEFCの内訳を入れるべき。	FSCとPEFCの内訳を入れた。
Ⅴ	120	認証森林の割合が低い背景、影響等について加筆すべき。	認証取得コストが高いとともに、認証材に対する認知度が低いことから、認証森林の割合が低い旨加筆した。 国内の企業でも認証材を優先的に調達する取組が広がる中、国内での森林認証の取得が広がることを期待する旨加筆した。
Ⅴ	120	認証森林の割合が低い理由は何か。	
Ⅴ	121	きのこ産業への支援策を加筆すべき。	しいたけ原木林の改良や、乾しいたけの加工業務向け供給や輸出拡大等に向けた取組を進めている旨加筆した。
Ⅴ	122	「製材品出荷量の約8割は建築用」とあるが、合板についても記述すべき。	「合板用材の約6割が建築用である」旨加筆した。
Ⅴ	126-127	A材、B材、C材の総合的な利用を図ることについて記述すべき。	原木流通に当たっては、長さや径級、材質、曲がりなどに応じて仕分けを行い、適切な用途に用いることが重要である旨加筆した。 また、曲がり材等を有効活用する「新流通・加工システム」についても加筆した。 （※「A材」「B材」「C材」という用語は、行政用語とはなっていないことから、白書では使用していない。）
Ⅴ	126	岐阜県中津川市の合板工場を紹介すべき。	中津川市の合板工場に関する事例を追加した。
Ⅴ	127	新生産システムの図に合板工場を入れるべき。	「新生産システム」の対象に合板工場は含まれないことから、現状のままとした。
Ⅵ	141	「赤谷プロジェクト」の記述ぶりを修正すべき。	正確な記述となるよう修正した。
講じよう		動向編に即して、章立ての構成を変更してはどうか。	現在、林政審議会において「森林・林業基本計画」の見直しを進めていることから、次回作成するものから、新たな章立てで作成することを検討したい。